

技術・家庭科の授業について

1 教科のねらい

【技術・家庭科の目標】においては、生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め進んで生活をくふうし創造する能力と実践的な態度を育てることをねらいとしています。

【技術分野の目標】においては、実践的・体験的な学習活動を通してものづくりやエネルギー利用及びコンピュータ活用等に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに技術が果たす役割について理解を深め、それらを適切に活用する能力と態度を育てることをねらいとしています。

【家庭分野の目標】においては、実践的・体験的な学習活動を通して生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに家庭の機能について理解を深め、課題をもって生活をより良くしようとする能力と態度を育てることをねらいとしています。

2 学習の仕方

① 授業の道具

教科書（技術分野か家庭分野）
ファイル（各種プリント保管）
資料集

※ すべて、1年生で購入

◎ 実習学習（木工室、コンピュータ室、被服室、調理室にて行う学習）
実習に必要な用具を必ず持参。（忘れるとできません。）

② 技術・家庭科の授業でどんな学力を身に付けるのか

- 生活や技術について関心を持ち、生活を充実・向上させるために、進んで実践できる力。
- 自らの生活を見直し、課題の解決を目指した工夫と創造をする力。
- 生活に必要な基礎的な技術を身に付けること。
- 生活や技術に関する基礎的な知識を身に付け、技術と社会よりよい関わりについて理解する力。

3 評価・評定

技術・家庭科は、「生活や技術への関心・意欲・態度」「生活を工夫し想像する能力」「生活の技能」「生活や技術についての知識・理解」の4つの観点で評価します。

① 生活や技術への関心・意欲・態度

積極的に取り組む意欲や態度などを重視して評価します。主に、作業や実習、毎時間の学習への取組状況、作品の提出状況、レポートや実践記録などを評価します。

② 生活を工夫し創造する能力

習得した知識や技術を積極的に活用し、生活を工夫したり創造したりする能力を評価します。主に、実習計画立案への積極性、既習事項の活用状況や実際の生活の場で工夫したり創造したりする状況などにより多面的に評価します。

③ 生活の技能

実際の生活の場面で必要とされる基礎的な技術が身に付いたかどうかを評価します。主に、学習課程における技能の習熟状況、完成した作品などにより多面的に評価します。

④ 生活や技術についての知識・理解

実践的・体験的な学習活動を通して、基礎的な知識を身に付けているか、生活と技術とのかかわりについて理解しているかどうかを評価します。主に、レポート、学習プリントの記入状況、テストなどを評価します。

【評価】

観点ごとのA・B・CをそれぞれA=3点 B=2点 C=1点と点数化します。

4つの観点の合計（最大12点）により5段階の評定になります。

評定 5・・・12

4・・・11 10

3・・・9 8 7

2・・・6 5

1・・・4